

報道機関 各位

平成17年3月1日
国立大学法人 広島大学
情報化推進部情報企画課長

摂食障害の病態を理解する上で有用な発見 —男女で異なる、不快な身体イメージ言葉に対する脳の反応性—

広島大学大学院医歯薬学総合研究科の山脇成人教授らの研究グループは、身体イメージに関連した不快な単語に対する脳の反応が、男女で異なることを明らかにしました。女性は「太る」「脂肪」といった身体イメージに関連した不快な単語を聞くと、恐怖に反応する脳の領域が活性化するのに対し、男性は同じ言葉を聞いても、感情を抑制する領域が活性化していました。

この研究成果は、女性がダイエットにこだわる理由、拒食症や過食症などの摂食障害の発症メカニズムなどを理解する上で有用な発見であり、今後、若い女性に急増している摂食障害の治療や予防法の開発、科学的根拠に基づいた適切なダイエットのあり方、脳機能の男女差の解明などに結びつくと期待されます。

今回、山脇成人教授、岡本泰昌講師(同研究科)、白尾直子医師らの研究グループは、女性はダイエットに熱中することが多く摂食障害患者が男性の約10倍も多いことなどから、身体イメージに関連した不快な単語に対する脳の反応が男女で異なることを想定し、研究を行いました。

男女各13人に「太る」「ぜい肉」などの不快な身体イメージを引き起こす言葉を聞かせ、機能的磁気共鳴画像解析装置(fMRI)という脳の活動を見る装置で調べました。その結果、女性では恐怖などの感情に関連する扁桃体が活性化したのに対し、男性の場合、扁桃体は活性化せず、むしろ感情のコントロールを担う左内側前頭前野が活性化していました(別紙参照)

また、摂食障害の程度を調べる心理テストも行い、摂食障害(拒食症・過食症)に近いという結果がでた女性では、左内側前頭前野の活動が低下していました。

この研究成果は、英国精神医学雑誌に掲載され、英国BBC放送をはじめ世界各国で報道されて注目を浴びています。

【お問い合わせ先】

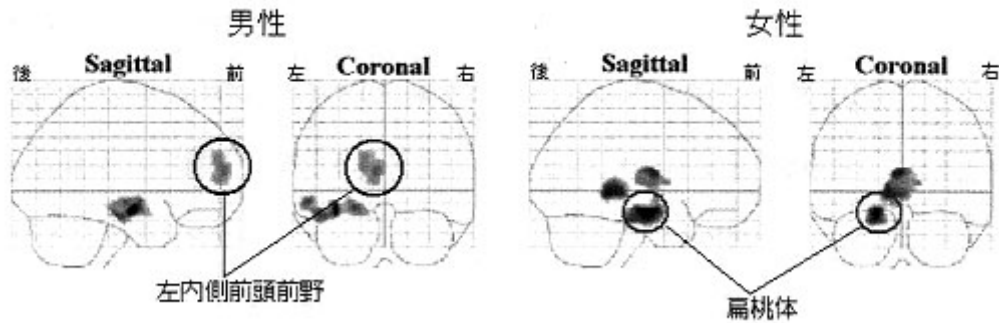
広島大学大学院医歯薬学総合研究科
精神神経医科学 岡本 泰昌
TEL:082-257-5207
E-mail: oy@hiroshima-u.ac.jp

[発信枚数;A4版 2枚(本票含む)]
○[別紙資料](#)

機能的磁気共鳴画像解析装置 (fMRI)



身体イメージに関連した不快な単語刺激が
呈示される時の脳活動を測定



身体イメージに関連した不快な単語刺激を用いている最中の脳活動を測定すると、男性では不快な感情を抑制する左内側前頭前頭において活動上昇が認められ、他方、女性では恐怖など不快な感情に反応する扁桃体に活動上昇が認められました。

<論文名>

Shirao N, Okamoto, Y Mantani T, Okamoto Y, Yamawaki S

Gender differences in brain activity generated by unpleasant word stimuli concerning body image: an fMRI study (Br J Psychiatry 2005 186: 48-53)